



当社は、JAPICの動物実験実施施設認証を取得しています



慢性閉塞性肺疾患（COPD）モデル

COPDは不可逆的な気道の閉塞や肺胞壁の破壊、肺の異常な炎症を特徴としています。これらの症状は、白血球の一種である好中球、リンパ球などの免疫細胞成分の集積や、タンパク分解酵素、サイトカインなどの産生異常が原因となり現れます。今回、エラスターゼ及びLPSをマウスに経肺投与することにより「慢性閉塞性肺疾患（COPD）モデル」を作製し、アレンドロネート投与による効果を確認したので、ご紹介致します。

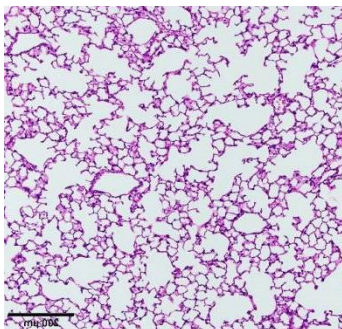
マウスを用いた慢性閉塞性肺疾患（COPD）モデル

使用動物：マウス（C57BL/6J）、雄、10週齢

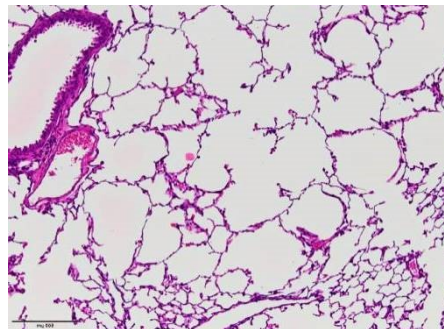
モデル作製方法：エラスターゼ及びLPSをマウスに経肺投与することにより作製

評価方法：病理組織学的検査（平均肺胞径の計測）

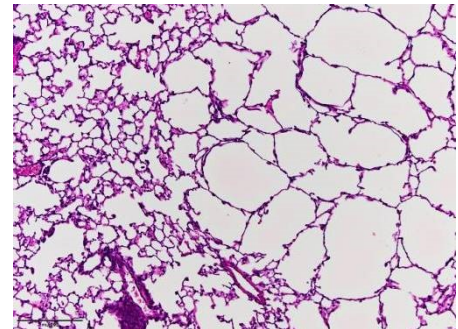
エラスターゼ／LPS投与後6週間



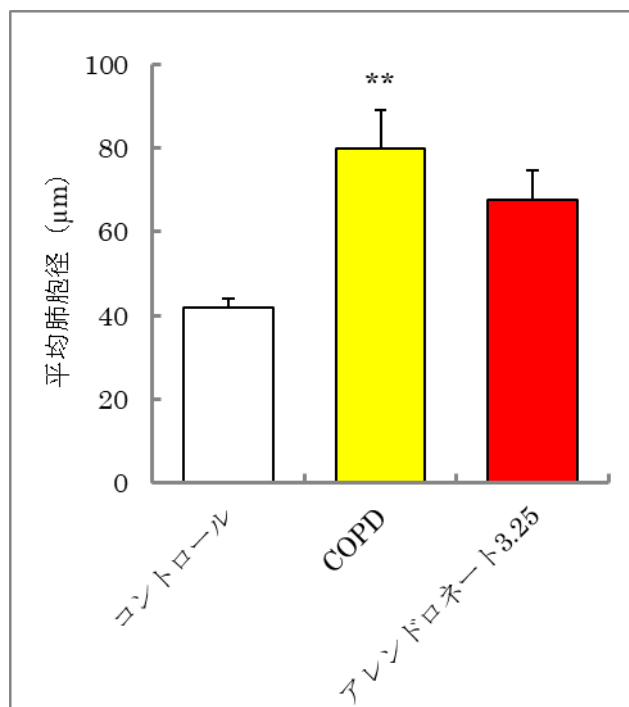
コントロール



COPD



アレンドロネート3.25μg



N=5~8

** : $p < 0.01$ コントロール群と比較して有意差あり

結果：平均肺胞径は減少傾向



次回は投与量を上げて平均肺胞径が用量依存的に減少することを確認する予定です！

